

令和7年度

鳴門市大麻中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

バランスの取れた「確かな学力」の育成
①特別支援教育の手法を生かし、「できた」「わかった」につながる授業づくり
②「思考の過程」を大切にしたい学びの場の充実
③学校と家庭との連携による目標をもった家庭学習の定着

校長

元木 紀美子

学力向上推進員

宮本 かおり

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や相互授業観察、教員からの報告等、様々な機会を捉え、プランへの取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な学習内容は身に付いており、授業などで与えられた課題にも意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ●学習習慣が定着していない生徒も少なからずおり、学力の二極化傾向が見られる。また、習得した知識・技能を他の課題や場面で活用する力に課題がある。	・基礎的・基本的な課題に、繰り返し取り組む粘り強さをもち、自らの知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができる。 ・授業1時間の「めあて」を知り、目標をもって授業に取り組むことができる。 ・読書に親しみ、様々な知識・教養を高めることができる。 ・習得した知識・技能を他の場面で活用し、自分や周りのために活用することができる。	・授業における「めあて」を生徒に掲示し、発問や指示を明確にするよう工夫する。 ・小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 ・授業をユニバーサルデザイン化し、スモールステップを意識し、生徒に「できる」「わかる」を実感させるようにする。 ・身につけた知識・技能を活用するような課題作成を研究するとともに、つけたい力を明確化する。 ・授業観察週間を設定し、授業技術を教員同士で学んだり、情報交換したりする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示内容や問題解決の手順が明確に示されたことに対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●資料の中から必要な情報を取り出したり、条件にそって文章にまとめたりすることに課題がある。また、答えがわかっても自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。	・課題解決のため、資料や情報を効果的に活用することができる。 ・自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・学習し、できるようになったことや分かったことを実際の生活にいかし自分や周りのために活用することができる。 ・新聞や本に興味・感心をもち、内容をまとめて文章表現ができる。	・授業における言語活動の充実を図るため、ホワイトボードや付箋、ICT等を活用し、班活動や学級全体の中で自分の考えや思いを表現できる場面を設定する。 ・課題解決に至る思考過程を大切にしたいノートづくりや思考ツールの活用を行う。 ・読解力をつけるために読書週間を設定し、新聞や本を活用し、心に残ることをまとめて文章表現したりする機会を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で真面目な生徒が多く、授業態度も落ち着いており、学習にも前向きに取り組んでいる。また、「志」をもち「あたりまえ」の質を高めようとする生徒が多い。 ●与えられたことに対しては誠実に取り組むことができるが、自ら課題を見つけて主体的に取り組むことは苦手である。	・生活ルールやマナー、学習規律を守るとともに、落ち着いた態度で集中して授業に取り組むことができる。 ・目標をもち、それを達成するための計画、実行、振り返りをし自己の成長のために主体的に努力を積み上げることができる。 ・長期的な学習の「見通し」をもち、具体的な計画を立てて自ら学ぶ意欲をもち、主体的に行動できる「自立」した生徒になる。	・「志」の設定。達成に向けて諦めずやり抜けるような目標をもたせる。 ・提出物等の確認や家庭学習強調週間の設定を通して、生徒が継続的・自主的に学習に取り組めるよう支援し、家庭学習の充実と定着を図る。 ・授業の「振り返り」を大切にし、生徒が主体的に目標の見直しや学習方法・計画等の見直しを行えるようにする。 ・放課後学習タイムを設定し、生徒に自ら学ぶ内容を選択させることで、主体的に学ぶ態度や自立する力の育成に努める。			